

「初秋の八島湿原(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

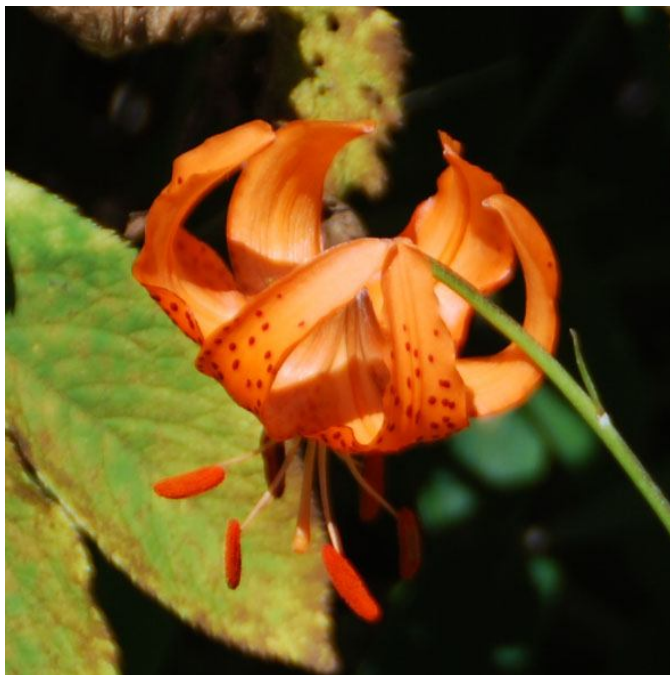
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

湿原の遊歩道は、木道が多い。文字通り、木でできた道だ。これは、「人が歩きやすいように」ではなく、「生態系の保護の為に」設置されたものだ。湿原は、1年に1mmぐらいしか厚さを増さず、踏みつけられることに非常に弱い。



八島ヶ原湿原にも、全周木道が設置されている。やや老朽化していて、ところどころ木が朽ちて、通りづらい場所もある。



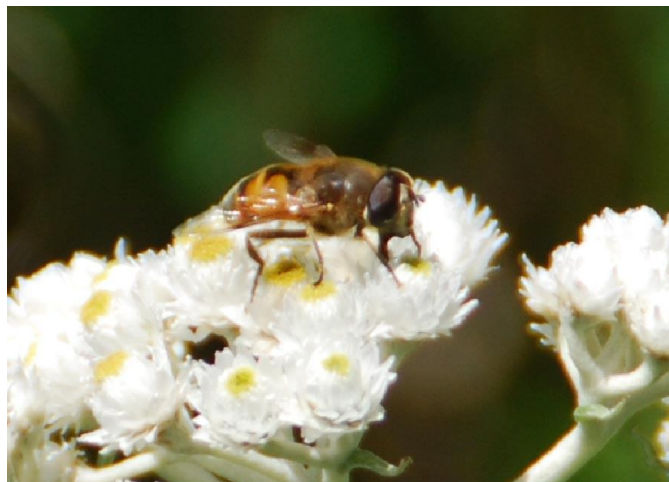
これは「コオニユリ」このような美しい山野草が随所に見られるが、決して木道はずれて撮影したりしてはいけない。一步の踏みつけが、湿原の生態系にとっては致命的なのだ。



駐車場から湿原に下りると、池塘の島もすぐ近くに見える。ちょっと池に入って、あの島の上に乗ってみたいと思ったが、もちろんNG。仮に乗っても、私の体重で沈没しそう。島の周囲にも水草が繁茂し、いずれはこの池も草原化してしまうのだろうと思った。



目立つ植物には、このように名称札がたっていて、大変有難い。しかも常設ではなく、その季節に咲いている花だけに付け替えられているようだ。実際に設置している方を見かけた。これは秋の七草の一つの「オミナエシ」控えめで清楚な野草だ。



「ヤマハハコ」に昆虫がとまって、吸蜜していた。木道から至近距離で撮影できるのが嬉しい。